

## 異なる学校林活動によるソーシャルキャピタルの蓄積の違い Difference in the accumulation of social capital by different schools forest activities

○伊藤輝\* 嶋栄吉\*\* 長利洋\*\* 柿野亘\*\*

HIKARU Ito\*, EIKICHI Shima\*\*, HIROSHI Osari\*\*, WATARU Kakino\*\*

### 1. はじめに

近年、ソーシャルキャピタル(以下 SC)という概念が注目を集めている。SC は Putnam(2001)<sup>1)</sup>の定義によると『協調的行動を用意することにより、社会の効率を改善しうる信頼、規範、ネットワークなどの社会的仕組みの特徴』と表される。わが国において SC の定量的な把握を試みているものは極めて少ないが(空閑, 2010)<sup>2)</sup>, 内閣府国民生活局が行った委託調査(2003)<sup>3)</sup>で、わが国における SC を都道府県別に測定する試みなどがなされている。しかし、今後の環境保全活動参加への潜在性について次世代を担う子供に適用することに意義があると考えられるが、児童を対象とした環境保全活動と SC との関係性についての研究は極めて少ない(空閑, 2010)<sup>2)</sup>. そのような中、伊藤ら(2011)<sup>4)5)</sup>は学校林活動を対象とし、活動の有無によって SC の蓄積に有意差が得られ、SC の蓄積が示唆されたと論じた。しかし、活動内容などにより得られる SC が異なることが推測され、その違いを把握することによって、将来も活動へ参加しうる要因となる SC を蓄積するためにはどういった活動が必要なのかが明らかになると考えられる。

そこで本研究では、学校林活動を対象とし、学校ごとによって異なるであろう SC の定量化をおこない、その原因について考察した。

### 2. 調査対象と方法

本研究では、山梨県の学校林活動を行っている小学校 4 校(A, B, C, D)を対象とした。対象の選定理由は、山梨県は県の約 8 割が森林の森林県であり、特に学校林活動は県がマニュアルを作成し、県内の小中学校等に活動を推進している全国でも有数の学校林活動県のためである。SC を定量化するために SC の構成要素と言われている【ネットワーク】【規範】【信頼】に関する質問項目を Table.1 のように設定した。その結果から、各学校ごとに学校林活動を構成している因子を抽出するために因子分析を行った(Table.2)。

Table.1 質問項目

Question item

構成要素	質問項目
【つきあい・交流】 (ネットワーク)	問1. 友達とのつきあい・交流
	問2. 先生とのつきあい・交流
	問3. 他人とのつきあい・交流
【社会参加】 (規範)	問4. 環境保全活動への参加意思
	問5. 進学や就職への意思
	問6. ボランティアへの参加意思
【信頼】	問7. 友達への信頼度
	問8. 先生への信頼度
	問9. 他人への信頼度

\*北里大学大学院獣医学系研究科 Graduate School of Veterinary Medicine, Kitasato University

\*\*北里大学獣医学部 School of Veterinary Medicine, Kitasato University

キーワード: 社会計画、ソーシャルキャピタル、学校林活動

### 3. 結果と考察

因子分析の結果 Table.2 のようになった。各小学校の因子はそれぞれ A 小学校は「因子No.1：大人との関係」「因子No.2：友達との関係」「因子No.3：ボランティアへの参加」。B 小学校は「因子No.1：市民活動への参加」「因子No.2：友達とのつきあい」「因子No.3：先生への信頼」。C 小学校は「因子No.1：自立心」「因子No.2：好奇心」「因子No.3：協力」。D 小学校は「因子No.1：人間関係」「因子No.2：将来への意識」と解釈された。全く同じ因子は得られず学校により SC の蓄積に差があることが示唆された。

また、各小学校には学校林活動の「活動内容」「時期」「回数」「時期」をヒアリング調査した。因子分析の結果と学校林活動の時間を比較すると、活動時間が多いほど得られる因子数も多くなる傾向がうかがわれた。同じく因子分析結果と活動内容を比較すると、下草刈りやネイチャーゲームなどで自分で作業を行う行動では参加や関係といった具体的な因子が解釈された。また、観察や見学など感じる行動では自立心や好奇心といった抽象的な因子が解釈された。このことから学校林活動における SC の蓄積は、自ら主体的、直接的に活動を経験することにより人間関係の構築や将来的な活動への参加が促され、視覚などの客観的な経験は自身の心象にのみ影響を及ぼすのではないかと考えられた。

### 4. まとめ

本研究では、学校林活動により蓄積される SC の値が小学校ごとに異なるのではないかと仮説を踏まえ、アンケート調査による SC の定量化と構成要素を抽出するために因子分析を行った。その結果、小学校ごとに異なる因子が抽出され、同じ学校林活動でも活動時間や活動内容によって得られる SC に差が生じることがうかがえた。特に自らが主体的、直接的に作業をするか否かが蓄積結果に強く影響するのではないかと考えられた。

#### 引用文献

- 1) Putnam, R. (2001) : “Making democracy work, Princeton University Press (河田潤一訳(2001)『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』NTT出版)。
- 2) 空閑睦子(2010) : ソーシャル・キャピタルに関する先行研究の整理 : 今日までにおける定義の概要と文献サーベイから見た日本の研究の動向, CUC policy studies review 27, pp39-49.
- 3) 内閣府国民生活局市民活動促進課(2003) : ソーシャル・キャピタル—豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて, <<https://www.npo-homepage.go.jp/data/report9.html>>.
- 4) 伊藤輝・高橋弘・嶋栄吉(2011) : 学校教育における緑化活動とソーシャルキャピタルについて, 平成23年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集, pp684-685.
- 5) 伊藤輝・高橋弘・嶋栄吉・柿野亘(2011) : 環境保全活動定着のためのソーシャルキャピタルについて, 農業農村工学会東北支部第54回研究発表会講演要旨集, pp54-55.

Table.2 因子分析結果

Factor-analysis result

小学校	因子No.	変数名	固有値	寄与率(%)	累積寄与率(%)	因子名
A	No.1	問3	3.165	35.16	35.16	大人との関係
		問9				
		問2				
		問8				
	No.2	問1	1.287	14.3	49.46	友達との関係
		問7				
B	No.3	問6	1.07	11.89	61.35	ボランティアへの参加
		問4				
	No.1	問6	2.914	32.37	32.37	市民活動への参加
		問4				
		問1				
		問8				
No.2	問1	1.388	15.42	47.8	友達とのつきあい	
	問8	1.005	11.17	58.97	先生への信頼	
C	No.1	問9	3.432	38.13	38.13	自立心
		問5				
		問8				
		問6				
		問3				
		問4				
	No.2	問6	1.28	14.22	52.35	好奇心
		問2				
		問7				
	No.3	問1	1.023	11.36	63.71	協力
		問3				
		問7				
D	No.1	問9	4.975	55.27	55.27	人間関係
		問8				
		問7				
		問1				
		問2				
		問6				
	No.2	問3	1.011	11.23	66.5	将来への意識
		問4				
		問5				
		問3				